

高齢者等福祉部会 第2回にむけた論点整理

平成 27 年 9 月 3 日

1. 不自由な避難生活の改善（高齢者福祉等）

町の取り組み	部会の意見
①個別訪問等による見守り (13)	<p>《個別訪問はじっくりと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出てこない人には見守りや訪問看護で対応して、しっかり話を聞いてあげる。 ● 訪問看護は、玄関であいさつするだけでなく、話を聞いてあげて、いっしょに泣いてあげることが大切だ。 ● 双葉町の人に訪問してほしい。 <p>《県外に避難している人の心のケア》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福島県の人に来てくれるとうれしい。 ● 県外に避難している方のフォローができにくい。 ● 福島県外にいる人の心のケアをフォローする。
②サポートセンターでの健康支援 (14) (15)	<p>《交流の場に出てこない人たち》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 良い方向に行く人と、行かない人のギャップが増している。 ● なかなかうまくとけこめない。あと一步ふみこめない。 ● 出不精な人は、個人的な事情もある。 ● 事故前から、近所付き合いをしなかった人もいるので、無理に引き出すのも迷惑ではないか。
③包括支援センターによる介護予防 (14) (15) (18)	<p>《包括支援センターによる介護予防》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健康支援教室はその場だけ。どう継続するか。プリント配布など。

④心のケア支援プログラム (16)	<p>《心のケアをする場所がない》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 心の中は見た目だけではわからない。 ● 心のケアは場所だけでなく、活動プログラムが必要だ。
⑤緊急通報システム (17)	(特になし)
⑥保健師等の人材確保 (18)	<p>《保健師等の人材確保》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 施設の職員不足で、受け入れてくれない。

2. 町民の生活再建の実現（高齢者福祉等）

町の取り組み	部会の意見
①長期的な健康管理 (33)	<p>《長期的な健康管理》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ラジオ体操プラスα（そうじ）など、群れでやることが大切だ。 ● 健康手帳の活用率。現状やっている人はすくない。
②定期的な健康診断 (36)	(特になし)
③避難先自治体と連携した 保健・医療・福祉サービス (37) (38)	<p>《ディサービスは双葉町民と利用したい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 避難先の自治体にディサービスの受け入れをお願いして、うまくいっている。 ● それでも、避難先自治体のディサービスを利用するのは気が引ける。 ● ある程度双葉の人がまとまっているところは利用しやすい。（《双葉町外拠点》にも記載あり） ● いわき市だけでも、双葉の人が利用しやすいサービスがひとつにまとまった拠点があるとよい。（《双葉町外拠点》にも記載あり） <p>《借上住宅に住む人への医療情報やサービスが不十分》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 南台は医療機関の送迎があるが、借上住宅の人は病院の送迎サービスがなく、医療機関情報もない。 ● 加須市では、市から医療施設一覧をいただいている。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難先自治体の医療や福祉施設を利用することに気が引ける。 ● 医療サービスに関する情報がない。 <p>《避難先の医療機関が不十分》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院がない。 ● 開業医は多いが、分かれていると不便。 ● 夜間に見てくれる病院がない。 ● 双葉町はめぐまれていたのを感じた。医療・福祉が一体化していた。 <p>《受け入れ先の移動が難しい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 病院の受け入れ先が変わった時の対応。新しい病院の受け入れ先が見つからない。 ● 施設利用では、次の受け入れ先を探すのが難しい。紹介状がもらえない。 ● 施設を移動したときに、同じようなサービスを受けられるか不安だ。 <p>《福祉施設にいつまでいられるのか不安である》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今の施設にいられるかわからない不安。 ● 国の方針が決まっていない。不安がつもの。
<p>④医療・介護施設の充実 (42)</p>	<p>《介護施設の心配ごと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 介護認定は、これまで1か月だったが、最近は3か月かかる。 ● 施設に入りたいが、みんなが入れるわけではない（定員、有料など）。 ● 介護サービスを受けようとしていない人がいる。 ● 同居家族がカギを持っているので、ディサービスから帰宅しても家に入れなことがある、その後参加しなくなった例がある。

3. 町外拠点における保健・医療・福祉体制の確保

町の取り組み	部会の意見
①双葉町外拠点における保健・医療・福祉体制の確保 (70) (71) (72) (73)	<p>《双葉町外拠点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ある程度双葉の人がまとまっているところは利用しやすい。 ● いわき市だけでも、双葉の人が利用しやすいサービスがひとつにまとまった拠点があるとよい。

4. その他（医療・介護が必要な状況にしないための視点）

町の取り組み	部会の意見
①町民の交流機会の確保 (83) (84) (85)	<p>《コミュニティがなくなった》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近所のつながりがない。 ● コミュニティがない。 ● 家族がいても日中ひとりの人のサポートをどうするか。 <p>《生きがいが見いだせない》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今まで（双葉町で）やっていたことがなくなった。 ● 好きなことができるスペースがない。 ● 行くところがない。 ● 双葉の人に会える場所がほしい。 ● 行きたいと思う人も場所がない。 ● 釣りとかゴルフとかならやる人もいる。そういう人を増やすことが大事。

	<p>《ひとりひとりに対応したサービス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 男性の場合は、好きなことや、明確な目的があれば、集まりやすい。 ● 個人ごとに、コミュニティの付き合い方をたくさん用意して、本人に選んでいただくことが大事だ。 ● 個人の生きがいや趣味を楽しめる場や機会を提供すれば参加するのではないか。 ● 町民を一律に考えるのではなく、ひとりひとりに個人的な特性や事情もあることを認める必要がある。 ● ひとりひとりがある程度自立できる支援をすることが求められている。 ● 選択可能な各種情報を提供して、自分で動けるように支援する。
<p>新たな視点</p>	<p>《避難先地域との軋轢》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 避難先の住民の心ない対応に、つらい思いをすることがある。 ● 避難先の地域で、避難者として見られるのは嫌だ。 ● 賠償金のことを避難先で言われるのはつらい。 ● 医療機関の窓口で、医療費無料のことで心無い対応をされるのがつらい。